

そ父母の育てたおいしいお米

古里小学校 三年 戸頃 敦

ぼくは、そ父母が心をこめて作ったお米が大好きです。そ父母は、いつもやさしい気持ちで、いねたちが育つのを見守っています。

そ父母は、手早に地下たびのホックを止めて、朝一番に田んぼに出かけます。毎日かならず、朝と夕方には田んぼに出かけます。そ父母は、いねたちが元気にすくすくと育っているか、びょう気になっていないかいつもい

ねたちの心はいばかりしています。おなかが空いていて、せがひくいねや、いなほが小さいいねには、ひりょうやきれいな戸水をあげます。また、びょう気がちのいねには、おい者さんみたいにして、しょうどくをして、びょう気をなおしてあげます。そ父母には、いねたちががしてほしいことがよく分かるのだと思います。そ父母は、雨の日も風の日も、台風で立っているのがやっこの日でもかならず田んぼに出かけて、いねたちのよう子をかんさつ

1
5
10
15
20
します。まるで、ぼくや妹を心ばいするよう
に、いねたちが育つのを見守っています。

しかし、去年はそんないねたちが台風の強
い風にたおされてしまいました。たおれたい
ねのいなほが田んぼの水にひたると食べられ
なくなるそうです。そ父母は、たおれたいね
たちを、ていねいに手作ぎょうで起こして回
っていました。そ父母は、大切に育ててきた
いねたちを一本もむだにしたくないのだと思
います。そ父は、「手作ぎょうの多かつたむ

かしの米作りを思えばなんのこれしき。と、
いねたちを守るために一生けんめいでした。

いねたちは、そ父母が田んぼにくると、風
にゆられてサワサワと音を立ててさわぎ出し
ます。夏には小さな白い花をさかせて、じよ
うぶに育ったことをじまんげに知らせます。
そ母は、「いねたちは、心を交わしてくれる
しゅ人の足音を何より心まちにしているんだ
よ」と言っていました。ぼくは、そ父母にこ
んな風に大切に育てられたお米が大好きです。